



日本刑法草案

第一編

第一編 (明治九年十月五日)





6466  
1

昭和八年十月廿日  
鶴田乙武

日本刑法草案第一編	第一章 總則	第二章 刑罰	第三章 刑罰之執行	第四章 少年刑罰	第五章 保安處分	第六章 附則	第七章 附則	第八章 附則	第九章 附則	第十章 附則	第十一章 附則	第十二章 附則	第十三章 附則	第十四章 附則	第十五章 附則	第十六章 附則	第十七章 附則	第十八章 附則	第十九章 附則	第二十章 附則	第二十一章 附則	第二十二章 附則	第二十三章 附則	第二十四章 附則	第二十五章 附則	第二十六章 附則	第二十七章 附則	第二十八章 附則	第二十九章 附則	第三十章 附則	第三十一章 附則	第三十二章 附則	第三十三章 附則	第三十四章 附則	第三十五章 附則	第三十六章 附則	第三十七章 附則	第三十八章 附則	第三十九章 附則	第四十章 附則	第四十一章 附則	第四十二章 附則	第四十三章 附則	第四十四章 附則	第四十五章 附則	第四十六章 附則	第四十七章 附則	第四十八章 附則	第四十九章 附則	第五十章 附則	第五十一章 附則	第五十二章 附則	第五十三章 附則	第五十四章 附則	第五十五章 附則	第五十六章 附則	第五十七章 附則	第五十八章 附則	第五十九章 附則	第六十章 附則	第六十一章 附則	第六十二章 附則	第六十三章 附則	第六十四章 附則	第六十五章 附則	第六十六章 附則	第六十七章 附則	第六十八章 附則	第六十九章 附則	第七十章 附則	第七十一章 附則	第七十二章 附則	第七十三章 附則	第七十四章 附則	第七十五章 附則	第七十六章 附則	第七十七章 附則	第七十八章 附則	第七十九章 附則	第八十章 附則	第八十一章 附則	第八十二章 附則	第八十三章 附則	第八十四章 附則	第八十五章 附則	第八十六章 附則	第八十七章 附則	第八十八章 附則	第八十九章 附則	第九十章 附則	第九十一章 附則	第九十二章 附則	第九十三章 附則	第九十四章 附則	第九十五章 附則	第九十六章 附則	第九十七章 附則	第九十八章 附則	第九十九章 附則	第一百章 附則
-----------	--------	--------	-----------	----------	----------	--------	--------	--------	--------	--------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	---------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	---------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	---------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	---------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	---------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	---------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	---------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	---------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	----------	---------



日本刑法草案第一編

日本刑法草案



日本刑法草案卷一目錄

第一編 總則

第一章 法例 附則

第二章 刑例 附則

第一節 刑名

第二節 主刑處分

第三節 附加刑處分

第四節 刑期計算

第三章 犯罪不論及、減輕加重

第一節 犯罪不論及、宥恕減輕



第二節 酌量減輕

第三節 加重

第四節 加減順序

第四章 數罪俱發

第五章 數人共犯

第一節 正犯

第二節 附從

第六章 未遂犯罪

第一節 附從

日本刑法草案卷一目錄

日本刑法草案卷一 第一編 總則 第一章 法律

第一條 凡法律之於罰不可不為

者及之懈怠為不可不為者又罪下之之分

種十為不罪入時國於加重減輕罪之犯

一重罪滿十回者時海之法律

二輕罪時

三違警罪三

第二條 重罪之第十三條記載スル刑ノ一



以テ罰ス可キ罪ヲ謂フ  
輕罪ハ第十三條ニ記載スル刑ノ一ヲ以テ罰  
ス可キ罪ヲ謂フ  
違警罪ハ第十四條ニ記載スル刑ノ一ヲ以テ  
罰ス可キ罪ヲ謂フ

第三條 何等ノ罪ト雖モ法律ニ正條ナキ者ハ  
之ヲ罰スルコトヲ得ス  
刑法ハ頒布以前ニ係ル犯罪ニ及ホスコトヲ得  
ス若シ所犯頒布以前ニ在テ未タ判決ヲ經サ  
ル者新法寛ナル時ハ新法ニ從テ處断ス

第四條 外國人日本國管内ニ於テ罪ヲ犯ス者  
ハ日本ノ法律ニ依テ處断ス  
其犯人外國ニ於テ既ニ其判決ヲ經ルト雖モ  
再々日本國ニ來リタル時ハ仍ホ其罪ヲ處断  
シ外國ニ於テ受タル刑ノ期限ハ之ヲ通算ス  
第五條 日本人外國ニ於テ重罪輕罪ヲ犯シ左  
ノ六件具備スル者ハ日本ノ法律ニ依テ推問  
處断ス  
一 罪ヲ犯シタル國ノ法律ニ照シテ重罪輕罪  
ト為ス可キ時



二 犯人日本國ニ歸來リシ時又ハ外國ヨリ交  
付ヲ得タル時

三 被害者又ハ外國政府ヨリ日本國ニ告訴告  
發ヲ為シタル時

四 罪ヲ犯シタル國ニ於テ一般普通ノ大赦ヲ  
受ナル時

五 罪ヲ犯シタル國ノ法律ニ照シ公訴ノ期滿  
免除ヲ經サル時

六 外國ニ於テ確定ノ裁判ヲ受サル時

第六條 日本人外國ニ在テ日本國ノ安寧ニ關

シ又ハ外國重及ハ政府外印信貨幣印紙公債證  
書若ハ官許ヲ得テ貨幣ニ代用スル銀行ノ  
證券等ヲ贋造スル重罪輕罪ヲ犯ス者ハ外國  
ニ於テ確定ノ裁判ヲ受タルヲ除ク外第五條  
ノ一項目五項ニ至ル條件ノ具備スルヲ  
要セズ其罪ヲ論スルハ其罪ノ輕重ニ依  
テ

第七條 日本ハ外國政府ヨリ審問行刑ノ為

メニ交付ヲ求ムル雖モ之ヲ交付セズ

第八條 外國人外國ニ在テ日本國ニ對シ第六

條ニ記載スル重罪輕罪ヲ犯ス者外國ニ於テ



確定ノ裁判ヲ受スシテ日本國ニ來リシ時ハ  
 日本刑法ニ依テ其罪ヲ論ス  
 第九條 現今ノ刑法及ク將來頒布スル所ノ刑  
 法ハ日本人民ニ於テ區別ナク之ヲ適用ス  
 陸海軍ニ關スル特別ノ法律ヲ以テ處断ス可  
 キ者ハ此限ニ在ラス  
 第十條 已ニ頒布スル各種ノ法律及ク諸規則  
 ニ刑名ヲ記載シ此刑法ト抵觸セサル者ハ各  
 其法律規則ニ從フ  
 將來頒布スル所ノ法律及ク諸規則ニ於テ

此刑法ノ總則ヲ適用ス可シ若シ特別ノ總則  
 ヲ掲クル者ハ此限ニ在ラス

第二章 刑例

第一節 刑名

第十一條 刑ハ主刑及ク附加トス

主刑ハ必ス宣告ス

附加刑ハ法律ニ從ク宣告ヤスシテ自ラ附加

スル者アリ又特別ニ宣告スル者アリ

並ニ輕罪ニ附加スル禁私權ハ宣告ヤス罰金没収  
 並ニ輕罪ニ附加スル禁私權ハ宣告ヤス罰金没収

第十二條 重罪ノ主刑



一死刑

二徒刑

三流刑

四懲役

五禁獄

六剝奪公權

第十三條 輕罪ノ主刑

一禁錮

二罰金

第十四條 違警罪ノ主刑

一拘留

第十五條 附加ノ刑

一剝奪公權

二禁公權

三監視

四禁私權

五禁錮

六罰金

七沒收



第十六條 各刑ノ執行方法及ク其細目ハ別ニ規則ヲ以テ之ヲ定ム

第二節 主刑處分

第十七條 死刑ハ斬首ス

但規則ニ定ムル所ノ官吏臨檢シ獄内ニ於テ刑ヲ行フ

第十八條 死刑ノ執行ハ司法卿ノ命令アルニ非レハ之ヲ為ス可カラス

第十九條 大祀令節國忌等ノ日ハ死刑ヲ行フ事ヲ禁ス

第二十條 死刑ニ該ル婦女懷胎ト申スル時ハ其執行ヲ止ム

但分娩ノ後又ハ醫師二人懷胎ニ非ルノ證ヲ得速ルニ非レハ刑ヲ行ハス

第二十一條 死刑ヲ遺骸ハ親屬請フ者アレハ

下付シ直ニ埋葬セシメ式ヲ用ルヲ許サズ

第二十二條 徒刑ハ分テ重徒輕徒ノ二ト為レ

並ニ期限ナク政府ヨリ定ムル島地ノ徒場ニ入ル苦役ニ服ス



一重徒ハ一人ヲ一室ニ鎖シテ服役ス

二輕徒ハ雜居服役ス

第二十三條 重徒ニ該ル者能ク獄則ヲ守リ役ヲ勉ムル時ハ五年ノ後獄司監察官具狀シ内務司法兩卿ノ決議ヲ取り輕徒ノ役ニ從フヲ許ス

第二十四條 徒刑ニ處セラレタル者年六十二滿キ又ハ判決ノ日已ニ六十二滿ル者ハ島地ニ於テ期限ナク禁錮シテ定役ニ服セス

第二十五條 徒刑ニ該ル婦女ハ島地ニ發遣セ

不期限ナク内地ノ懲役場ニ入レ婦女相當ノ

役ニ服ス餘ハ第二十二條第二十三條第二十

四條ノ規則ニ同

第二十六條 流刑ハ分行重流輕流ノ二ト為ス

並ニ期限ナク政府ヨリ定メタル島地ニ配置ス

第二十七條 重流ハ一人ヲ一室ニ鎖シ獄舎ノ

規則ニ從ヒ所好ノ作業ヲ執ルヲ許シ且親

屬ニ接見スルヲ許ス

第二十八條 重流ニ該ル者能ク獄則ヲ守リ悔改ノ狀アル時ハ五年ノ後第二十三條ノ規



則ニ依テ輕流ノ處分ニ從テ得テ許ス  
第二十九條 輕流ニ該ル者ハ地ヲ限リ居住セ  
シメ常ニ親屬ニ接見スルヲ得

其犯人ノ情狀ニ依リ家屬同居セシテ許  
者ハ之ヲ許可シ且耕作ノ為メ土地ヲ貸與ス  
ルヲ得若シ規則ニ觸ル、罪アルニ於テハ  
其同居ヲ禁シ土地ヲ追還スルヲ得

第三十條 懲役ハ刑期ヲ分テ二ト為ス重キ者  
ハ十年以上十五年以下輕キ者ハ五年以上九  
年以下並ニ内地ノ懲役場ニ入レ苦役ニ服ス

一重懲役ハ一年間一人ヲ一室ニ鎖シテ服役

二輕懲役ハ六月間一人ヲ一室ニ鎖シテ服役

第三十一條 禁獄ハ刑期ヲ分テ二ト為ス重キ

者ハ十年以上十五年以下輕キ者ハ五年以上  
九年以下並ニ内地ノ監獄ニ幽閉シ定役ニ服

禁獄ニ該ル者瀛地ニ移ラシテ請フ時ハ其刑

期間輕流ノ規則ニ從テ得テ許ス



第三十二條 剥奪公權ハ終身左ノ權ヲ剥奪ス

一 政權及々國民ノ特權

二 現任官職及々將來官吏ト為ルノ權

三 賞牌位記貴號ヲ有シ及々外國賞牌ヲ帶ル

ノ權

四 兵籍ニ入り及々兵器ヲ帶ルノ權

五 私證書ノ證人ト為テ調印シ及々裁判所ニ

於テ事實ヲ陳述スルノ外證據ヲ申立ルノ

權

六 後見人及々其監察人ト為ルノ權

但親屬ノ許可ヲ得テ子孫ノ為

此限ニ在テ

七分散人又ハ會社及々公益財産ノ支配人管

財人ト為ルノ權

八 私立學校長及々教師學監ト為ルノ權

第三十三條 剥奪公權ノ主刑ハ犯人ノ情狀ニ

依リ之ヲ分科スルヲ得但前條ノ第一項第

二項ヲ除ク

若シ分科ノ目ヲ宣告ヤサズ時ハ之ヲ全科

若シ分科ノ目ヲ宣告ヤサズ時ハ之ヲ全科



第三十四條 禁錮ハ分テ重禁錮輕禁錮ノ二ト  
為シ其刑期ハ十一日以上五年以下仍ホ各本  
條ニ於テ長短ヲ區別ス

一重禁錮ハ禁錮場内ニ於テ定役ニ服ス  
二輕禁錮ハ別舎ニ拘置シ定役ニ服スルヲ十

若シ長短ノ刑期ヲ記載セサル者ハ十一日ヨ  
リ五年ノ限ヲ過クルヲ得ス

第三十五條 禁錮ノ刑ニ於テ一等又ハ數等ヲ  
減輕スルキ時ハ本條記載スル刑期ヲ四分シ

テ其一分ヲ降減スルヲ以テ一等ト為ス

其降減ノ法ハ本刑ノ長期短期ヲ俟ビテ之ヲ  
降減ス例ハ一年以上三年以下ノ本刑一等ヲ

第三十六條 服役ヨリ生スル工錢貸錢ヲ分テ

三ト為シ其二分ヲ獄舎ノ費用ニ供シ其一分  
ハ領置ルヲ本犯又ハ親屬ノ需用ニ供ス

定役ニ服セザル者ハ作業ヨリ生スル工錢貸  
錢ハ折半シテ本犯又ハ親屬ノ需用ニ供ス

其領置分與ル方法ハ別定規則ヲ以テ之ヲ定

第三十六條 刑罰執行法ニ關スル法律ニ依リ其



第三十七條 罰金ハ二圓以上各本條ニ於テ其數ヲ區別ス若シ其數ヲ記載セサル者ハ百圓ニ過ルヲ得ス

第三十八條 罰金ノ刑ニ於テ減等ス可キ時ハ本條記載スル金額ヲ四分シ其一分ヲ降減スルヲ以テ一等ト為ス

第三十九條 拘留ハ一日以上十日以下各本條ニ於テ刑期ヲ區別シ拘留場ニ留ム若シ法律ニ於テ其長期ヲ記載セサル者ハ十日ニ過ルヲ得ス

第四十條 科料ハ五錢以上一圓五十錢以下各本條ニ於テ其數ヲ區別ス若シ其數ヲ記載セサル者ハ一圓五十錢ニ過ルヲ得ス

第四十一條 罰金ハ刑名確定ノ日より一月内ニ納完セシム若シ限内ニ全額ヲ納メス又ハ幾分ヲ缺納スル者ハ一圓ヲ一日ニ折算シ全額及ビ殘額ノ半ニ至ルマテ之ヲ輕禁錮ニ換罰金ヲ禁錮ニ換ル者ハ更ニ裁判ヲ用セス檢事ノ求ニ依リ裁判長官之ヲ命ス



第四十二條 罰金ノ半ヲ禁錮ニ換フト雖モ其  
殘額ハ仍ホ之ヲ追徴ス

第四十三條 禁錮中犯人又ハ其親屬代テ罰金  
ヲ納完スル時ハ其經過スル日數ヲ扣除シテ  
禁錮ヲ免セラル

第四十四條 罰金ヲ實決ノ刑ニ附加シタル時  
納完セサル者ハ主刑滿限ヲ後ニ於テ之ヲ禁  
錮ニ換フト

第四十五條 科料ハ五日內ニ納完セシム若シ  
納完セサル者ハ第四十一條以下ノ例ニ照シ

拘留元換フト但金額一圓以下ニ雖モ仍ホ一日

計算スル間滿地限ハ發効日ヨリ時計刑ニ

第三節 附加刑處分

第四十六條 重罪ニ處セザル者剥奪公權

主刑ヲ除キ別ニ宣告用ヒス直ニ

第三十二條 記載スル公權ハ全部終身剥

奪スルヲ輕罪ノ實決ニ處セラレタル者ハ

第四十七條 輕罪ノ實決ニ處セラレタル者ハ

別ニ宣告用致ス現任ノ官職ヲ失フ



本刑期限間ハ別ニ宣告ヲ用ケス第三十二條ニ記載スル諸權ヲ停止ス其第三項ハ停止ノ限ニ在ラス

第四十八條 重禁錮ニ該ル者ハ仍ホ公權ノ全部又ハ幾分ヲ禁スル丁ヲ得但其期限ハ各本條ニ記載スル禁錮ノ期限ニ同シ  
輕禁錮ニ該ル者ハ各本條ニ記載スルノ對公權ヲ禁スル丁ヲ得ス  
禁公權ノ時間ハ主刑ノ終タル日ヨリ始ルモ

第四十九條 死刑徒刑流刑ニ該ル者特赦ノ減免ヲ得及ビ期限満免除ヲ經過シ時別ニ宣告ヲ用ケス直ニ終身監視ニ付シタルモノ

第五十條 懲役禁獄ニ處テタル者ハ別ニ宣告ヲ用ケス直ニ各本條ニ記載スル本刑ノ長期ニ等シキ時間監視ニ付シタルモノトス

第五十一條 重禁錮ニ處テタル者ハ別ニ宣告ヲ用ケス直ニ各本條ニ記載スル本刑ノ長期ニ等シキ時間監視ニ付シタルモノトス



輕禁錮ニ處セラルル者ハ各本條ニ記載スルノ外監視ニ付スルヲ得ス  
 第五十二條 有期ノ刑ニ附加スル監視ハ主刑ノ終タル日ヨリ其期ヲ起算ス  
 若シ主刑ヲ科セスレテ止タ監視ヲ宣告スル時ハ其確定ノ日ヨリ期限ヲ起算ス  
 第五十三條 監視ニ該ル外國人ハ日本政府ノ決議ニ依テ之ヲ放逐スルヲ得  
 第五十四條 監視ノ方法ニ別ニ規則ヲ以テ之ヲ定ムル

第五十五條 徒刑流刑懲役禁獄ニ處セラルル者ハ其刑期間私權ヲ行フヲ禁ス  
 死刑ニ宣告シ受刑者ハ行刑ニ至ル時間又懲期滿免除時迄ハ時間前項ニ同シ  
 囚犯ハ其財産ニ親屬會議及囚犯ノ意見ヲ聞テ裁判所ヨリ命シタル後見人ヲシテ之ヲ支配スルニ其他人不能力者ハ後見人ヲ爲ス  
 以上規則ヲ從フ禁錮ニ付テハ  
 輕流禁獄ニ處スル者ハ其情狀ニ依リ私權其全部又幾分ヲ行フヲ許可スルヲ



得又其許可ヲ廢スルヲ得  
第五十六條 主刑ノ剥奪公權ニ該ル者ハ三月  
以上二年以下ノ禁錮ヲ附加スルヲ得  
婦女及ク外國人此刑ニ該ル時ハ必ス禁錮ヲ  
附加ス

第五十七條 主刑ノ剥奪公權ニ該ル者本條ニ  
罰金ノ數ヲ記載セサル時ハ必ス二圓以上百  
圓以下ノ罰金ヲ附加ス  
其他ノ刑ニ於テ本條別ニ記載スルニ非レハ  
罰金ヲ附加ス

第五十八條 沒收ハ必ス宣告ス其物件左ノ如

- 一 法律ニ於テ禁制シタル物件
  - 二 犯罪ノ用ニ供シタル物件
  - 三 犯罪ヨリ得タル物件
- 但第一項ハ何人ノ所有ヲ問ハズ第二項三  
項ハ其物件ノ犯人ニ屬スル時ノ外沒收ス  
ルヲ得ス又法律ノ正條ヲ以テ特別ニ定  
メタル沒收ハ此條ト相抵觸スルヲ勿レ
- 第五十九條 重罪ノ刑ノ宣告書ハ之ヲ摘撮シ



左ノ各所ニ揭示ス

一 裁判宣告ノ地

二 犯罪ノ地

三 犯人最終住居ノ地

揭示スル所ノ摘撮書ハ犯人ノ姓名年齢職業

住所及ヒ罪状刑名ヲ記載スヘシ

輕罪ニ於テハ本條別ニ記載シタルニ非レハ

之ヲ揭示廣告ス可ラス

第六十條 刑事ノ裁判費用ハ其全部又ハ幾分

ヲ犯人ニ科スルヲ得

若シ納完セサル時ハ直ニ第四十一條ニ照シ

費用金一圓ヲ一日ニ折算シ其全額ニ滿ル

テ輕禁錮ニ換フ但金數一圓ニ滿ラサル者ト

雖モ仍ホ禁錮一日ニ計算ス

第六十一條 犯人ヲ刑ニ處シ又ハ放免スト雖

モ贓物ヲ還給損害ノ賠償ヲ請求スルノ障礙

ト爲ルコトナシ

還給賠償ノ請求ハ刑事裁判所ニ於テ民法ニ

從ヒテ之ヲ審判スルヲ得

第六十二條 同一ノ犯罪ニ依リ宣告シタル裁判



判費用 贓物ノ還給損害ノ賠償 正犯從犯及  
民事ノ擔當人互ニ連帶ス可シ

第六十三條 犯人ノ財産足ラサル時ハ左ノ順  
序ニ從テ之ヲ徵償ス

一 刑事裁判費用

二 民事ノ賠償

三 罰金

第四節 刑期計算

第六十四條 有期ノ刑ヲ計算スル時一日ト稱  
スル者ハ二十四時ヲ以テ之一月ト稱スル者

三十一日ヲ以テス但入監ノ日該時間ヲ論セ

ズ一日ト算入出監ノ日ハ正午十二時ヲ以

テ一日ト爲シ各款三ノ終止ノ時ハ終止ノ日

一年ト稱スル者ハ曆法從テ其數ヲ算スル

第六十五條 刑罰確定シタル後ハ非テ之

刑ヲ執行ス可クハ左ノ諸刑ヲ依テ消滅ス

第六十六條 實決刑期ハ其執行ノ日ヨリ起

算ス然レモ其間中入監セタル者ハ左ノ區別ニ

依テ其日數ヲ刑期ニ算入ス



一 輕禁錮ニ該ル者ハ入監ノ全數  
 二 重禁錮ニ該ル者ハ入監ノ半數  
 三 有期重罪ニ該ル者ハ入監四分ノ一  
 前規則ハ判決延滞ノ原由ニ拘ハラズ一体ニ  
 此計算法ニ從フ

第六十七條 拘留ヲ除クノ外實決ノ刑ニ處セ  
 ラレタル犯人能ク獄則ヲ守リ悔改ノ状アル  
 者ハ其刑期四分ノ三ヲ經過スルノ後第二十  
 三條ノ規則ニ照シ假ニ出獄ヲ許スルヲ得  
 假出獄ヲ許サレタル者ハ本刑期限内特別ニ

定メタル監視ニ付ス

若シ期限内更ニ實決ニ該ル重罪輕罪ヲ犯シ  
 タル時ハ直ニ出獄ノ効ヲ失テ之ヲ本刑ニ服  
 シ並ニ後犯ノ罪ヲ科シ再々出獄ヲ許スルヲ  
 得ス

第六十八條 刑ハ左ノ諸件ニ依テ消滅ス

一 犯人ノ死去ニ該ル時但罰金裁判費用ノ類  
 次此限在テハ  
 二 有期刑ノ終リタル時  
 三 數罪俱發重ニ從フタル時



四新法ヲ以テ刑ヲ廢止シ及ヒ減輕シタル時  
五大赦特赦ニ依テ減免シタル時

六期滿免除ヲ得タル時

七復權ノ許可ヲ得タル時

第六十九條 主刑ノ期滿免除ハ左ノ如シ

一死刑ハ三十年

二徒刑ハ二十五年

三流刑重懲役重禁獄ハ二十年

四輕懲役輕禁獄ハ十五年

五禁錮ハ十年

六罰金ハ五年

七拘留ハ二年

八科料ハ一年

第七十條 期滿免除ヲ起算スルハ刑ノ確定シ

テ執行ヲ遁レタル日ヲ以テ始トス其闕席裁

判ニ係ル者ハ宣告ノ日ヲ以テ始トス

若シ限内捕ニ就キ又ハ罰金等追徴ノ處分ニ

及フ者ハ並ニ期滿免除ノ期限ヲ中止ス

第七十一條 附加刑ハ主刑ト共ニ期滿免除ヲ

得然レトモ左ニ記載スル諸件ニ於テハ其例



ヲ異ニス

一重罪ヲ附加スル剥奪公權及、無期ノ刑ニ附加スル監視ハ期滿免除ヲ得ス

二禁公權及、有期ノ重罪輕罪ニ附加スル監視ハ主刑消滅ノ日ヨリ十年ヲ以テ期滿免除ノ限トス

三主刑ヲ科セスレテ止テ監視ヲ宣告シタル時ハ其確定ノ日ヨリ十年ス以テ期滿免除ノ限トス

四剥奪公權ニ附加シタル禁錮ハ五年ヲ以テ

期滿免除ノ限トス

五附加ノ罰金ハ其額數ニ從テ罰金科料ノ期滿免除ニ同シ

六法律ニ於テ禁制シタル物件ノ没収ハ期滿

免除ヲ得ス其第五十八條ノ二項三項ニ記載スル者ハ五年ヲ以テ期滿免除ノ限トス

七裁判費用ハ其金額ニ從テ罰金科料ノ期滿

免除ニ同シ

八被害者ニ對スル還給賠償及、民事裁判費

京ナ用ノ期滿免除ハ民法ニ從テ



第七十二條 復権ハ本犯ノ願ニ依リ公權ヲ復  
與シ監視ヲ免ス者トス  
復権ハ勅裁ニ非レハ之ヲ許可スヘカラス  
復権ノ願ハ左ノ期限ヲ經サレハ之ヲ為ス  
ヲ得ス

- 一 主刑ノ剥奪公權ハ其確定ノ日ヨリ十年ノ  
後附加刑ノ剥奪公權ハ主刑消滅ノ日ヨリ  
五年ノ後
- 二 重罪ニ附加シタル監視ハ主刑消滅ノ日ヨリ  
五年ノ後

- 三 主刑ヲ科セスシテ止メ監視ヲ宣告シタル  
者ハ其確定ノ日ヨリ五年ノ後
  - 四 輕罪ニ附加シタル監視ハ其期限ノ半ヲ經  
過シタル後
  - 五 再犯者及ビ期滿免除ニ依テ主刑ノ消滅シ  
タル者ハ前數項ニ記載シタルニ倍ノ期限  
ヲ經過セサレハ其復権ヲ得ヘカラス
- 復権ノ法式ハ治罪法ノ規則ニ從フ
- 第三章 犯罪不論及ビ減輕加重  
第一節 犯罪不論及ビ宥恕減輕



第七十三條 各本條ニ於テ別ニ罪ヲ論セズ及  
シ減輕スルノ外後ノ數條ニ記載スル者ハ其  
罪ヲ論ヤス又ハ之ヲ減輕ス

第七十四條 法律ニ於テ罪ト為ル可キ所為  
リト雖モ左ノ諸件ニ係ル者ハ其罪ヲ論セズ  
一 抗拒ス可ラサル脅迫ニ遭キ已ムヲ得サル  
ニ出テ為タル時

二 天災ニヨリ避ク可ラサル危難ニ遭キ自己  
及キ親屬ノ身体ヲ防護スル為メニ出テ為  
タル時

三 法律ニ循キ又ハ其職務ニ於テ本屬長官ノ  
命令ニ依テ為タル時

第七十五條 無意ニシテ罪ヲ犯カタル者ハ  
其罪ヲ論セズ但法律ニ於テ別ニ定メタル規  
則ヲ守行サル者ハ此限ニ在ラス  
若シ有心ニ出ルト雖モ罪ト為ル可キ事タル  
ヲ知ラサル者ハ其罪ヲ論セズ  
罪本重カルクレテ犯ス時知ラサル者ハ其  
罪重ニ從テ論スルヲ得ズ  
刑法ヲ知ラサルヲ以テ其犯スノ意ナキト為



不了ヲ得ス  
第七十六條 罪ヲ犯ス時知覺精神ヲ喪失スル者ハ其罪ヲ論セス若シ罪ヲ犯ス為メニ故ラニ藥酒等ヲ用ヒ精神ヲ喪失シタル者ハ此限ニ在ラス

第七十七條 罪ヲ犯ス時年齡滿十二歲以下ノ者ハ其罪ヲ論セス然レ氏犯罪ノ情狀ニ依リ特別ニ設ケタル懲治場ニ拘置スルコトヲ得但其期限ハ犯人ノ年齡滿十六歲ニ過ルコトヲ得ス依テ本島身官

第七十八條 滿十二歲以上滿十六歲以下ノ者ハ犯罪ノ所為其是非ヲ辨別セザルコト否ヤヲ審察不可シ若シ其所為辨別ナクシテ行犯シタル時ハ其罪ヲ論セス但前條ノ例ニ依リ年齡滿二十歲ニ至ルテ之ヲ拘置スルコトヲ得若シ其所為辨別ナクシテ行犯シタル時ハ丁年者ノ受クハキ本刑ヲ宥恕減輕シ左ノ諸件ニ照シテ處断スルコトヲ得一死刑ハ重懲役又至重禁獄ニ減軽シ二徒刑ハ輕懲役



三流刑ハ輕禁獄

四懲役ハ重禁錮但重懲役ヨリ減スル者ハ二

年以上五年以下輕懲役ヨリ減スル者ハ六

箇月以上二年以下

五禁獄ハ輕禁錮其期限ハ前項ニ同シ下年

六主刑ハ剝奪公權ハ輕禁錮六箇月以上二年

以下

七禁錮及シ罰金ハ各其四分ノ三ヲ減ス

第七十九條 滿十六歳以上二十歳以下ノ者ハ

犯罪ノ所為是非ヲ辨別スルト否トヲ問ハス

一休丁年者ハ受刑ハ本刑ヲ宥恕減輕シ

左ノ諸件ニ照シテ處斷ス

一死刑ハ重徒刑又ハ重流刑

二重徒刑ハ輕徒刑

三輕徒刑ハ重懲役

四重流刑ハ輕流刑

五輕流刑ハ重禁獄

六重懲役ハ輕懲役

七輕懲役ハ二年以上五年以下ノ重禁錮

八重禁獄ハ輕禁獄



九輕禁獄及主刑ノ剝奪公權ハ二年以上五  
十年以下ノ輕禁錮  
十禁錮及罰金各其四分ノ一ヲ減ス

第六十條 違警罪滿十六歲以上二十歲以下  
以者雖モ皆恕減輕ノ限ニ在ラス滿十二歲  
以上滿十六歲以下ノ者辨別アリテ犯シタル  
時モ亦同シ

第八十一條 滿十六歲以下ニシテ生來聾啞ノ  
者罪ヲ犯シタル時ハ其罪ヲ論セス但第七十  
七條第七十八條ノ例ニ依リ之ヲ拘置スルコト

ヲ得 其滿十六歲以上ノ者ハ犯罪ノ所爲是非ヲ辨

別シタルト否トヲ審察シ其辨別アリテ犯シ  
タル時ハ第七十八條ニ照シテ處分シ辨別ナ  
クシテ犯シタル時ハ其罪ヲ論セス但五年以  
下ノ時間之ヲ拘置スルコトヲ得

第八十二條 重罪輕罪ヲ犯シタル者其證憑發  
覺セヌ又ハ告知アラサル前ニ於テ自ラ官ニ  
首服シテ捕ニ就ク時ハ宥恕シテ第七十九條  
ノ例ニ照シ本刑ニ一等ヲ減ス



第八十三條 前條ニ記載スル自首ノ犯人若シ  
他人ノ財産物件ニ對スル重罪輕罪ニ係ル者  
自ラ其盜取騙取シタル物品ノ全部又ハ幾分  
ヲ返還シ又ハ貨幣其他ノ方法ヲ以テ其損害  
ヲ償却シタル時ハ其返還償却ノ價額四分ノ  
一毎ニ本刑一等ヲ減ス  
第八十四條 犯人自首スト雖モ犯罪ノ日ヨリ  
十五日内ニ於テ別ニ犯人タルノ証憑発覺シ  
又ハ告知アル時ハ第八十二條ニ記載スル一  
等減輕ヲ用ル丁ヲ得ス

第八十五條 減等ニ依テ禁錮又ハ罰金ヲ減盡  
シタル時ハ禁錮ハ拘留ニ處シ罰金ハ科料ニ  
處ス  
第二節 酌量減輕  
第八十六條 重罪輕罪違警罪ヲ分タス所犯情  
狀原諒スヘキ者ハ酌量シテ輕減スル丁ヲ得  
法律ニ於テ宥恕減輕又ハ加重スヘキ時ト雖  
モ仍ホ酌量減輕スル丁ヲ得  
酌量減輕ハ裁判官ノ意見ニ任スト雖モ其事  
由ヲ裁判宣告書ニ詳記セサル可カラズ若シ

自首



之ヲ詳記セズ又ハ情理ニ反レタル事由ヲ以テ減軽スル時ハ其効ナシトス  
第八十七條 重罪輕罪ニ於テ酌量減輕ス可キ情状アル時ハ第七十九條ニ記載シタル刑ノ等級ニ從テ本刑ヨリ一等又ハ二等ヲ減輕ス  
禁錮罰金ニ於テ本刑四分ノ一ヲ減スルヲ一等トシ四分ノ二ヲ減スルヲ二等ト爲ス  
第八十八條 違警罪ニ於テ酌量減輕ス可キ時拘留料料併料ス可キ者ハ其一ニ從テ處斷レ  
單ニ拘留ニ該ル者ハ其短期ニ處テ料料ニ該

ル者ハ四分ノ一又ハ四分ノ二ヲ減スルヲ爲ス  
第三節 加重  
第八十九條 重罪輕罪ノ爲メ各本條ニ於テ別ニ加重ノ刑ヲ定メタルノ外左ニ記載スル所ノ原由アル者ハ其刑ヲ加重ス  
一 罪ヲ犯シ已ニ處刑ヲ受クル後再び罪ヲ犯シタル時  
二 犯罪ヲ豫防シ又ハ制止ス可キ責任アル官吏自ら其罪ヲ犯シタル時  
行政司法警察官  
吏及ク事件ニ依  
リ特別ノ責任  
アル官吏



第九十條 重罪ニ於テ加重スヘキ刑ノ等級ハ  
 第七十九條ニ記載シタル刑ノ順序ヲ逆推シ  
 テ一等ト為ス但加テ死ニ入ルヲ得ス  
 輕罪ノ加重ハ各本條ニ記載シタル禁錮罰金  
 ノ四分ノ一ヲ以テ一等ト為シ加ヘテ重罪ニ  
 入ルヲ得ス  
 第九十一條 先ニ重罪ノ刑ニ處セラレタル者  
 再々重罪輕罪ヲ犯シタル時ハ左ノ諸件ニ照  
 シテ加重ス  
 一 後犯重徒刑ニ該ル者ハ第二十三條ニ記載

シタル期限ヲ三倍ニ其罰金ハ其額ノ二倍ニ  
 二 輕徒刑ニ該ル者ハ重徒刑ニ處ス  
 三 重流輕流ニ該ル者加重ノ法徒刑ニ同シ  
 四 剝奪公權ニ該ル者ハ第五十六條ニ記載ス  
 ル禁錮ノ長期ヲ附加ス又ハ其長期ノ半ニ  
 至ルマテ加重スルヲ得  
 五 有期重罪ノ刑ニ該ル者ハ各其長期ニ處ス  
 又ハ其長期ノ半ニ至ルマテ加重スルヲ  
 得  
 六 重罪ヲ犯シ減輕ニ依テ輕罪ニ該ル者又ハ



輕罪ヲ犯シタル者ハ各其長期ニ處ス又ハ  
 其長期ノ半ニ至ルマテ加重スルヲ得  
 七罰金ニ該ル者ハ各其多數ニ處ス又ハ其多  
 數ノ半ニ至マテ加重スルヲ得  
 第九十二條 重罪又ハ輕罪ヲ犯シ一年以上ノ  
 禁錮ニ處セ又シタル者再々重罪又ハ輕罪ヲ  
 犯シタル時ハ左ノ例ニ照シテ處断ス  
 一 無期ノ刑ニ該ル者ハ加重セ又ハ止メ其  
 二 本刑ヲ科スル者ハ加重セ又ハ止メ其  
 二 剝奪公權ニ該ル者ハ其附加スヘキ禁錮ノ

長期ニ處ス又ハ其長期ノ四分一ニ至ルマ  
 テ加重スルヲ得  
 三 有期ノ刑ニ該ル者ハ各其長期ニ處ス又ハ  
 其長期ノ四分一ニ至マテ加重スルヲ得  
 四 罰金ニ該ル者ハ各其多數ニ處ス又ハ其多  
 數ノ四分一ニ至マテ加重スルヲ得  
 第九十三條 一年以下ノ禁錮又ハ罰金ニ處セ  
 ラレタル者再々輕罪ヲ犯シ禁錮罰金ニ該ル  
 時ハ各本條ニ記載スル刑期金額ノ半以上ニ  
 處ス



第九十四條 附加刑モ亦主刑ノ例ニ准シテ加

重ス

第九十五條 再犯加重ハ初犯ノ裁判確定ノ後

非レハ之ヲ論スルヲ得ス

第九十六條 初犯又ハ刑大赦又ハ期滿免除ニ依

テ消滅シタル時ハ再犯加重ノ限ニ在ラズ

第九十七條 陸海軍裁判所ニ於テ處決ヲ經テ

止者再々重罪輕罪ヲ犯シタル時ハ初犯ノ罪

常律ニ從テ處斷シタル者ニ非レハ再犯加重

ノ例ヲ用ヒス

第九十八條 再犯ニ依リ宣告シタル刑ハ初犯

ノ刑ト各自ニ科シ再犯ノ重刑ヲ以テ初犯ノ

輕刑ヲ消滅スルヲ得ス

然レモ初犯ノ刑未タ終ラズシテ再犯ノ刑ヲ

宣告シタル時ハ先其重キ者ヲ執行シテ輕キ

者ヲ後ニス

第九十九條 違警罪ノ刑ニ處セラレタル者一

年内其違警罪裁判所ノ管轄内ニ於テ再々違

警罪ヲ犯シタル時ニ非レハ再犯加重ヲ以テ

論スルヲ得ス



再犯ノ罪拘留又ハ科料ニ該ル時ハ各本刑ノ長期又ハ多數ニ處ス若シ拘留科料併科スル時ハ二刑中其一箇ハ長期又ハ多數ニ處ス

第百條 犯罪ヲ豫防シ又ハ制止スヘキ責任アリ官吏所部内ニ於テ其罪ヲ犯シタル時ハ初犯ト雖モ再犯ノ例ニ從テ加重ス

本條別ニ官吏ノ犯罪ノ刑ヲ定メ又此者ハ各本條ニ從テ加重ス

第四節 加減順序 重刑ハ先ニ科シ輕刑ハ後ニ科ス

第百一條 犯罪ノ性質ニ依リ同時ニ特別又ハ

一 一般ノ原由ヲ以テ加重減輕長短キ時ハ左ノ順序ニ從テ其刑名ヲ定ム

一 特別ノ加重

二 一般ノ加重

三 特別ノ減輕

四 一般ノ減輕

五 酌量減輕

第四章 數罪俱發

第百二條 罪ヲ犯シ未タ裁判ヲ經スニ罪以上俱ニ發スル時ハ各自ニ其刑ヲ科ス



然レ左ニ記載スル諸件ハ各其區別ニ從テ  
處斷ス

一 二罪以上ノ違警罪俱ニ發シ科料ニ該ル時

ハ各其刑ヲ科スト雖モ併セテ十圓ニ過ル

四丁ヲ得ヌ其拘留ニ該ル時ハ併セテ十日ニ

三過ル丁ヲ得ヌ

二 輕罪違警罪俱ニ發シタル時ハ止テ輕罪ノ

刑ヲ科ス

三 二罪以上ノ輕罪又ハ輕罪ニ減輕スヘキ重

罪ノ俱ニ發シタル時ハ各其刑ヲ科スト雖

モ其刑名同キ者ハ一重キニ併セテ其長  
期多數ニ過ル丁ヲ得ヌ

若シ重禁錮輕禁錮ノ俱ニ發シタル時ハ各

其刑ヲ科スト雖モ先ツ重禁錮ヲ執行シ其

經過シタル日數ハ仍ホ輕禁錮ノ期限ニ算

入ス

四 重罪輕罪俱ニ發シタル時ハ止テ重罪ノ刑

科ス

然レモ剥奪公權重禁錮俱ニ發スル時ハ各

其刑ヲ科ス



五二罪以上ノ有期重罪俱ニ發シタル時ハ各  
 其刑ヲ科スト雖モ其刑名同キ者ハ一ノ重  
 キニ併セテ其長期ニ過ルヲ得ス  
 四若シ懲役禁獄ヲ俱ニ發シタル時各其刑  
 ヲ科スト雖モ先ツ懲役ヲ執行シ其經過シ  
 タル日數ハ仍ホ禁獄ノ期限ニ算入ス  
 六二罪以上無期ノ重罪又ハ無期有期ノ重罪  
 俱ニ發シタル時ハ從一ノ無期ノ刑  
 ヲ科ス  
 然レモ流刑懲役俱ニ發スル時各其刑ヲ

科シテ先ツ懲役ヲ執行ス  
 第百三條 一罪前ニ發シ已ニ論決ヲ經テ餘罪  
 後ニ發スル時モ亦前條ノ例ヲ適用ス  
 若シ前發ノ刑輕クシテ後發ノ刑重キ時ハ其  
 經過シタル實決ノ日數ヲ以テ後發ノ刑期ニ  
 算入ス  
 前發ノ刑罰金料料ニシテ後發ノ刑實決ニ該  
 ル時ハ金額ヲ還付シテ後發ノ刑ヲ科ス  
 第百四條 一罪ヲ犯スニ因テ數ノ刑名ニ觸  
 レタル時ハ一ノ重ニ從テ處断ス



第五章 數人共犯

第一百四節 正犯

第一百五條 二人以上連合して現に罪ヲ犯シタ  
ル者ハ皆正犯トシ各自ニ犯ス者ト同ク其  
刑ヲ科ス

但シ法律ニ於テ人ノ多數ニ依リ別ニ本刑ヲ  
加重スル者ハ此限ニ在ラス

第一百六條 威逼贈與結約奸媒ヲ用テ人ヲ教唆

シテ重罪輕罪ヲ犯スルヲ決心セシメタ者  
亦正犯ト為ス

論說ヲ公衆ニ演述シ又ハ文書ヲ刊行廣布シ

テ國ノ安寧ニ關シ及ヒ人民ニ對シ重罪輕罪

ヲ犯スルヲ教唆シタル者モ亦同シ

但法律ニ於テ特別ニ教唆者ノ刑ヲ加重スル

者ト相牴觸スルヲ勿レ

第一百七條 法律ニ於テ人ノ身分ニ依リ刑ヲ加

重スル時連合ノ正犯其罪ヲ重カル可キ事ヲ

知リタル者ハ同ク加重ノ刑ヲ科ス

然トモ再犯加重ニ該ル正犯者アル時他ノ連

合者ハ之ヲ知ルト雖モ加重ノ刑ヲ科スルヲ



ヲ得ス  
第二節 附従

第百八條 犯罪ノ情ヲ知リ左ニ記載スル所為

ヲ以テ正犯ヲ補助スル者ハ附従ト為

一 犯罪ノ為メ又ハ犯罪ヲ容易ナラシメタル為

メ正犯ニ器具ヲ給與シ又ハ誘導指示シ及

メ其他ノ方法ヲ與ヘタル者

二 預備ノ所為ヲ以テ犯罪ヲ補助シ又ハ之ヲ

容易ナラシメタル者

三 犯罪ノ後ニ於テ其終成ヲ補助シ又ハ之ヲ

三 容易ナラシメタル者

第百九條 附従ノ犯ハ第七十九條ニ記載スル

例ニ照シ正犯ノ刑ニ一等ヲ減ス

第百十條 正犯ノ身分又ハ所為ニ依リ其罪ノ

重カル可キ原由アルヲ知タル附従ハ其重

ニ從テ減等ス

若シ附従ノ身分ニ依リ重カル可キ原由アリ

ト雖モ之ヲ正犯及メ他ノ附従ニ及ホスヲ

得

第六章 未遂犯罪



第百十一條

一人又多數人重罪輕罪ヲ犯サレ

ト決定シタルノニ於テハ本條別ニ刑名ヲ

ルニ非レハ刑ヲ科セス

重罪輕罪ヲ犯サントシテ止テ其設備ヲ為シ

タル者モ亦同シ

第百十二條

重罪ヲ犯サレトシテ已ニ着手重

罪其犯狀顯然タリト雖モ犯人意外ノ障礙ニ依

リ之ヲ中止シタル時ハ第七十九條ニ記載ス

ル例ニ照シ已ニ行テ遂ケタル罪ニ二等又ハ

三等ヲ減ス

第百十三條

重罪ヲ犯サントシテ已ニ其所為

ヲ盡スト雖モ犯人意外ノ件錯ニ依リ其目的

ヲ遂ケサル時ハ第七十九條ニ記載スル例ニ

照シ已ニ遂ケタル罪ニ一等又ハ二等ヲ減ス

第百十四條

若シ真心悔悟ニ依リ其犯サント

セシ所為ヲ中止シ又ハ已ニ所為ヲ盡スト雖

モ其目的ヲ遂ケサル時ハ現ニ加タル毀損傷

害ニ外其罪ヲ論セス

第百十五條

罪ヲ犯サントモシテ所為アリト雖

モ其事物ノ性質又ハ施用ノ方法ニ於テ更ニ



害又為不能及若致凶害ヲ為ス不雖其  
 害輕之亦テ犯人ヲ目的ヲ遂ク可キ知テ時  
 停止ヲ現年加ヘタル毀損傷害ノ刑ヲ科ス  
 此條ニ該ル者ハ本刑ヲ科スルト否ト其分  
 以第百十二條第百十三條ニ記スル犯人ニ附  
 加不可キ期限間監視ヲ科ス其分  
 第百十六條輕罪ヲ犯サンテ未遂ニテサ  
 ル罪ハ本條別ニ定メタル者ニ非テ前數條  
 ニ記載スル方法區別長從行之ヲ處斷可キ  
 事不三級ニ重罪ニテヤニテモ其分

第百十七條 違警罪ヲ犯サントシテ未タ遂ケ  
 サル者ハ其罪ヲ論セス











